

ドクターナフジ

ドクター和の

ニッポン



臨終回巻

長尾和宏(ながお・ずひろ)
医学博士。京医大卒業後、大阪大二内科入局。1995年、庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療で「人を死にさせる」総合診療をめざす著「薬のやめどき」「痛くない死の方」は近著もベストセラー。西国際大学客員教授。

とを公表しました。大学時代の仲間の集まりに参加したとき、「顔色が尋常ではない」と言われたことを機に検査を受けてがんがわかつたそうです。

手術は無事成功し、3ヵ月後には番組に復帰。それまでの人生では仕事以外には無頓着だったそうですが、それからは定期的に健康診断を受けるなど、生

「たるんじやつたな、みんなな」。毎日新聞社特別編集委員で、日曜朝の『サンデーモーニング』(TBS系)で長年にわたり頼れる『意見番』た岸井成格(しげただ)さん。この春、お見舞いに行った関口宏さんが「何か言いたいことはないかい?」と尋ねた際、一生懸命に声に出して言ったのが、冒頭の言葉だったそうです。

混迷する今の政治

さんは2007年12月、同番組でS字結腸

「たるんじやつたな — 混迷する政界に投げかけた



抗がん剤の副作用の脱毛を気にするの女性だけではあります。鏡を見る

インターネットなどでは、「なんで帽子をかぶってテレビに出てるんだ? 非常識だ」というクレームがたくさんあつたそうです。こうした発言はがんに携わっている医師として大変残念に思います。

10年後に岸井さんの体内で、いったがんだったと推測します。同じ人の異なる部位にがんが発生することを「重複がん」あるいは「多重がん」と呼びます。長寿天国であるわが国において、重複がんは決して珍しいことではありません。私の患者さんにも4つの臓器にがんがでた方がおられました。

2つのがんと向き合いながら、最期までこの国の未来を案じていた岸井さん。先日のお別れの会には、党派を超えて政治家の重鎮が多く参列されていました。祭壇の写真で微笑む岸井さんからの「たるんじやつたな」という声は、彼らの耳に届

てている男性も実は多くいます。男であれば女であれ、ふだん帽子をかぶつていなかつた人が帽子をかぶついている時は、のっぴきならない事情があるはず。触れずにおくのが大人の流儀というものでしょう。

秋、岸井さんは再び番組を休業しました。10月に復帰された際、関口さんが「帽子をかぶつて岸井さんが復帰されました」と紹介すると、「がんの治療です」と入院してたもんですから。放射線と抗がん剤でいろいろな副作用あって…」と話しました。けつそりとされていました。岸井さんは番組に復帰。それまでの人生では仕事以外には無頓着だったそうですが、それからは定期的に健康診断を受けるなど、生

た。73歳でした。岸井さんは2007年12月、同番組でS字結腸癌で亡くなられました。73歳でした。岸井さん

「たるんじやつたな — 混迷する政界に投げかけた



抗がん剤の副作用の脱毛を気にするの女性だけではあります。鏡を見る

10年後に岸井さんの体内で、いったがんだったと推測します。同じ人の異なる部位にがんが発生することを「重複がん」あるいは「多重がん」と呼びます。長寿天国であるわが国において、重複がんは決して珍しいことではありません。私の患者さんにも4つの臓器にがんがでた方がおられました。

2つのがんと向き合いながら、最期までこの国の未来を案じていた岸井さん。先日のお別れの会には、党派を超えて政治家の重鎮が多く参列されていました。祭壇の写真で微笑む岸井